

遊休農地の活用、 未利用魚商品の販売

秋田県立能代高等学校(アースディ能代)

1 みどり戦略との関連性

【遊休農地の活用】

・環境に優しい農業経営に繋げる。

【未利用魚商品の販売】

・食品ロスの削減で、持続可能な消費を拡大する。

・地産地消を推進する。

2 目的

【遊休農地の活用】

遊休農地を活用して植栽・収穫を地域の方々と子供で行うことで、自然の中で交流しながら衰退する地域をを守るため。

【未利用魚商品の販売】

昨年度に引き続き、サイズが規格外であるなどの理由で市場にあまり出ない未利用魚を利用した商品を作り、販売することによって、未利用魚の存在を知ってもらうため。

3 取組内容

【遊休農地の活用】

6月に能代市の常盤にある遊休農地でじゃがいもなどの野菜を植栽し、地域の方々に収穫していただいたものを保育園のこどもたち・地域の方々と一緒に調理して、収穫祭を行う。

【未利用魚商品の販売】

去年の11月に作成した、未利用魚を使ったブイヤベースのレトルトパウチを、11月に能代高校で53個販売した。その後、買って食べた数人に商品についての感想を聞いた。

4 結果

【遊休農地の活用】保育園の子どもたちに収穫祭に参加してもらうことはできなかった。地域の方々と共に収穫祭を行い、遊休農地に植栽したじゃがいもなどの野菜を使って、ハヤシライスを作った。

【未利用魚商品の販売】購入した数人から、「おいしかった」、「魚介を感じる」、「地元アピール・高校生アピールをもっとすればいいのでは?」、「未利用の貝などもいればいいのでは?」といった感想をいただいた。



図1 収穫祭で作ったハヤシライス



図2 レトルトパウチのパッケージ

5 考察・まとめ

【遊休農地の活用】遊休農地を活用して農業を行い、地域の人々と交流することもできたので、これからもこの活動を行っていきたい。

【未利用魚商品の販売】多くの人に未利用魚の存在を知ってもらうことができたと思う。